

平成26年度 英真学園高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「みんな ちがって みんないい（金子みすゞ 『わたしと小鳥と鈴と』）」の合言葉のもと、教職員・生徒一人ひとりが、自分とは違う他者の個性・特性を認め合い、楽しい学園生活を過ごせる学校を目指す。

生徒一人ひとりが、基礎的な学力をつけ、さらに発展的な学力を持つような学習環境づくりを行うとともに、社会で生活できる人間力・問題解決能力を持たせることができる学校を目指す。

基本的な生活習慣が確立し、社会規範やルール、マナーを守り他者の模範となれる生徒、また社会組織でのリーダーとなれる生徒の育成を目指す。

2 中期的目標

1. 人間力を育む

「みんな ちがって みんないい」の合言葉のもと、生徒一人ひとりがお互いを尊重しあうとともに、社会の他者に対しても人権・人格尊重の気持ちとお互いをいたわる気持ちを持たせ、楽しい学園生活を過ごさせる。

2. 転学・退学生徒を減らす

基本的な生活習慣を生徒に確立させ、学校内での居場所を作らせ楽しい学園生活を過ごさせることにより転学・退学生徒の減少を図る。

3. わかる授業と進路保障

教職員のスキルアップとわかる授業の実践により、基礎学力の確立と発展的学力の充実に図る。また、キャリア教育に取り組み、自己の将来に亘るライフプランの形成能力を育成することにより、進路についてしっかりと考えさせる。

4. 生徒リーダーの育成

HR活動、特別活動、クラブ活動、生徒会活動、校内行事における諸活動において生徒集団の中における生徒リーダーの育成を図る。この諸活動をつうじて学校の校訓の実践を図っていく。

5. 全員による渉外活動

本校の継続的発展と安定した教育体制と経営基盤を築くためには、安定した生徒募集が必要であり、学校組織の活性化の中で教職員は積極的に渉外活動にあたる。

また本校生徒の活動的また躍動的な姿を紹介することにより、“行きたい学校”“行かせたい学校”となるように努める。

3 本年度の取り組みおよび自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標	達成状況と 自己評価
1 人間力を 育む	他者尊重と共生・共働の精神を育む	<p>普段からの人権意識の育成のほか、人権HRとして、1年で視覚障がい・車いす体験と介助体験を、2年で戦争・紛争と人権をテーマに戦場ジャーナリストの講演、3年でデートDVについて考えるに 取り組む</p> <p>環境教育の一環として淀川河川敷清掃活動（CUP）を全学的に取り組む 校内美化や施設設備を大切に 取り扱う姿勢を養う</p>	<p>人権HRへの生徒参加率とアンケート結果</p> <p>参加生徒数と収集ごみ・廃棄物量</p>	<p>各学年とも実施ができ、生徒アンケートにおいて障がいを持つ人への対応の仕方が理解できた、紛争地域では子どもや高齢者の人権が脅かされていることが理解できた、デートDVについても理解できたとの良い結果が出ている。</p> <p>CUPは予定日・予備日ともに雨天により残念ながら実施できなかった</p>
2 転学・退学生徒を減らす	<p>基本的な生活習慣の確立</p> <p>課題のある生徒への支援と指導</p>	<p>遅刻生徒の減少を図るため各月および年間の目標値を設定する</p> <p>欠席の多い生徒・課題のある生徒およびその保護者との連絡・連携を図る</p> <p>スクールライフサポート委員会による学校生活サポートを必要とする生徒の認定とサポートの取り組みを行なう</p> <p>転学・退学者数を減らすよう取り組む</p>	<p>月間遅刻統計の数値</p> <p>担任による生徒・保護者への連絡記録、家庭訪問・、学校での懇談回数</p> <p>スクールライフサポート適用生徒の進級率</p> <p>転学者・退学者数・率</p>	<p>25年度より各学年ともに遅刻者数が減少し成果が上がっている</p> <p>担任は学年や関係部署の支援を受け課題ある生徒・保護者との連絡を密にとりあった</p> <p>26年度のスクールライフサポートの適用生徒数は9名で全員進級・卒業を果たした</p> <p>26年度は前年度に比べ1・2年での転学・退学率を大きく減らすことができ、全体で8.2%となり取り組みの成果が見られる</p>

<p>3</p> <p>わかる授業と進路保障</p>	<p>基礎学力の確立とわかる授業</p> <p>進路保障</p>	<p>基礎学力確立のため、1年から3年まで各コースにおいて、基礎学力教材（マナトレ）の中学からの復習を含む基礎編・標準編・挑戦編に取り組む。</p> <p>各学年において、空き時間の教員が教室に入り、授業の展開をサポートする（サポート授業）</p> <p>教員のスキルアップのため公開授業を行なう（公開授業・研究授業）</p> <p>キャリア教育の実施によりライフプランを考える力をつけさせる</p> <p>大学との連携による大学見学と授業体験等の実施</p> <p>進学及び就職における講習指導</p> <p>進学合宿とグレードアップセミナー、休暇中の進学講習会の開催</p>	<p>教材への取り組み進捗と確認テスト結果</p> <p>サポート実施率</p> <p>キャリア教育年間計画の実施率</p>	<p>計画通りの実施がほぼでき、生徒たちの基礎力の向上が見られる</p> <p>また、模擬試験においても評価ランクの向上が見られる</p> <p>26年度も学年で積極的にサポート授業に取り組む、成果を挙げることができた</p> <p>外国語科が積極的に研究授業を実施して、他教科への刺激となった</p> <p>キャリア教育の年間実施計画をほぼ予定通り実施することができた</p> <p>2大学との連携で大学での授業体験や見学が実施できた</p> <p>進学合宿・グレードアップセミナー・進学講習会も計画通り実施できた</p>
<p>4</p> <p>生徒リーダーの育成</p>	<p>HR・クラブ活動の活性化</p>	<p>運動部合同合宿によるリーダー育成</p> <p>部活動での対外試合・各種大会等への積極的参加と達成感</p> <p>生徒リーダーによる体育祭における団活動</p>	<p>運動部合同合宿の実施と参加者数</p> <p>部活動表彰数</p>	<p>5月の2週目の金～日に実施、大会に出場するため参加できないクラブも一部あったが有意義な成果があった</p> <p>弓道部で大阪総体団体優勝や個人で全国選抜大会出場など運動部・文化部を含めて優秀な成績を上げた</p> <p>体育祭の団活動において運動部員がリーダーとなり活躍した</p>

4		生徒会執行部を中心に行事実行委員会を含めた生徒会活動 校内行事において生徒の活発性・行動力を前面に出す	行事实行委員の生徒数	生徒会執行部も欠員なく充足し、また執行部に協力する行事实行委員に積極的に立候補する生徒が出てきて取り組んだ
5	教職員全員による渉外活動	生徒募集活動に関わる行事に全教職員が取り組む (オープンスクール・学校見学会・入試説明会等)	教職員の参加率	オープンスクール・学校見学会においては全教職員が任務・業務分担を行い取り組んだ オープンスクールではクラブ生や生徒会役員が積極的な役割を果たし活気のあるものとなった 今後、外部の入試説明会や私学展などへ、一部関係部署の教職員だけではなく、全教職員が携わるようにしていく必要性がある

4 学校評価（自己評価）集計結果

調査対象 専任教職員 61名対象 回答数 60名 (未回答1名は休職中)

調査結果

学校運営

*学校への帰属意識 校訓について

[設問] 校訓について教職員・生徒・保護者が理解し、その実現に取り組んでいる。

評価結果⇒⇒校訓への理解と取り組みは進んではいるが、さらに進めなければならない。

*教育課程 教育課程の実践について

[設問] 各教科、年間教育計画に基づいた授業ができています。

評価結果⇒⇒年度当初に作成している「年間指導計画」に沿って、各教科とも高い確率で授業が進められている。

*教職員の連携 教員間、教員と事務職員間の連携 会議の有効かつ効率的機能

[設問] 教員間の相互理解、信頼関係により教育活動が実践されている。

評価結果⇒⇒教員間の中で連携の取れた教育が実践されている。

[設問] 教員と事務職員間の情報伝達がスムーズで、相互理解、連携はとれている。

評価結果⇒⇒教員と事務職員間の連携が改善され良好なものとなっている。

[設問] 職員会議をはじめ各種会議が有効的かつ効率的に機能している。

評価結果⇒⇒昨年度各種より会議は、有効的・効率的に機能している。

*財務関係 財務に関する意識について

[設問] 学校（法人）の財務状況や経営指標、予算・決算の収支状況を理解している。

評価結果⇒⇒教職員や保護者に対する学校の財務状況についての情報伝達と理解をさらに進めなければならない。

*情報公開 ホームページの活用 学校・学年・学級の情報 授業公開

[設問] 学校ホームページで可能な範囲での情報公開がされている。

評価結果⇒⇒学校ホームページは十分に情報公開の役割を果たしている。

[設問] 学校・各部・学年・学級から生徒・保護者へ広報だよりが効果的に発行されている。

評価結果⇒⇒生徒・保護者への情報伝達が機能している。

[設問] 保護者に対する授業公開は有効的な効果を発揮している。

評価結果⇒⇒昨年度より授業公開（授業参観）については改善がされている。

*危機管理 危機管理の対応状況 役割分担

[設問] 危機管理マニュアル、警察・消防との連携、訓練など学校の安全対策ができて
いる。

評価結果⇒⇒危機管理の体制について、さらに明確にする必要がある。

[設問] 事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確になっている。

評価結果⇒⇒昨年よりも改善されて入るが重大な事故・事件・災害が起きた場合の
役割分担をもっと明確にする必要がある。

*地域に開かれた学校づくり 学校開放・地域交流について

[設問] 地域に対し学校の施設の貸し出しや地域住民との交流が行われている。

評価結果⇒⇒地域と密接な関係が築かれていると判断できる。

教育内容

*人権教育 研究・教育体制

[設問] 人権に関する研究体制があり、人権尊重の意識を高める教育・学習を行っている。

評価結果⇒⇒人権教育は行われているがさらに取り組みを高める必要がある。

*支援教育 研究・教育体制

[設問] 支援教育に対する研究体制があり、生徒の個々の特性を踏まえた支援教育・学
習が行われている。

評価結果⇒⇒個々の生徒の特性を踏まえた教育体制が定着している。

*環境教育 環境問題意識の向上 実践的態度の育成

[設問] ゴミ・リサイクル・省エネなど身近な環境問題への関心を高める教育をしてい
る。

評価結果⇒⇒淀川河川敷の清掃活動やゴミの分別回収などを通し環境教育ができ
ている。

[設問] 生徒に清掃・校内美化、施設・設備を大切にしている取り組みをしている。

評価結果⇒⇒校内美化や施設・設備を大切に扱うことができている。

*キャリア教育 研究・教育体制

[設問] キャリア教育に関する研究や組織的・系統的なキャリア教育が生徒に対し行われている。

評価結果⇒⇒キャリア教育についてしっかりとした取り組みができている。

*授業 授業について 授業を受ける態度について 授業の進捗について

[設問] 教員は授業に対する事前研究ができているか

評価結果⇒⇒授業に対する事前研究はできているがさらに高める必要がある。

[設問] 生徒はしっかりと授業を受ける姿勢が取れている。

評価結果⇒⇒授業に臨む姿勢や心構えの指導と生徒に興味を持たせる授業の推進を図らねばならない。

[設問] 学習は、生徒の学力・能力に応じた進捗ですすすめられている。

評価結果⇒⇒授業の進捗は、年間指導計画とあいまって適正に行われている。

*情報教育 情報モラルについての指導

[設問] 情報のモラルについての指導が行われている。

評価結果⇒⇒情報のモラルの指導をさらに推進しなければならない。

生徒指導

*生徒指導 指導体制について 家庭との連携について

[設問] 生徒指導に対し組織的に対応する体制ができている。

評価結果⇒⇒生徒指導が組織的に行われていることが確認できる。

[設問] 生徒指導において家庭と常に連携をとるように努めている。

評価結果⇒⇒生徒指導が家庭との連携において行われている。

*生徒支援 学習指導について 生徒把握について カウンセリング体制について
不登校対策について

[設問] 学習指導において、生徒の実態に合わせた指導ができている。

評価結果⇒⇒学習指導について、生徒の実態に合わせた指導ができている。

[設問] 個々の生徒について状況を把握できる体制ができている。

評価結果⇒⇒個々の生徒についての把握は概ねできているがさらに努力が必要である。

[設問] 「ほっとる〜む」などカウンセリング体制は機能している。

評価結果⇒⇒カウンセリング体制は機能している。

[設問] 不登校生徒に対する指導が組織的にできている。

評価結果⇒⇒不登校生徒に対する取り組みをもっと強めなければならない。

*進路指導 進路指導について

[設問] 生徒に将来の進路に関心を持たせる指導・教育および保護者との連携ができている。

評価結果⇒⇒生徒に将来の進路について関心を持たせる指導はできている、保護者との連携もできている。

*欠席過多 欠席過多生徒への取り組み

[設問] 欠席過多生徒に対し、組織的な指導と保護者との連携ができています。

評価結果⇒⇒欠席過多生徒に対する組織的な指導について何らかの対策が必要である。

*退学生対策 退学生を減らす取り組み

[設問] 退学にいたるまでの間に、生徒に対し指導と保護者との連携ができています。

評価結果⇒⇒退学生を減らす取り組みの中で、生徒と保護者に対し緊密な連携ができています。

特別教育活動

*特別教育活動 生徒会活動 クラブ活動 学校行事

[設問] 生徒会活動を通じて生徒が主体的に活動できるような支援・指導ができています。

評価結果⇒⇒教員の指導のもと生徒会活動が活発に行われ、生徒の自主的活動がなされてきている。

[設問] 生徒がクラブ活動を通じて主体的に活動できるような指導ができています。

評価結果⇒⇒クラブ活動が活発化し成果を挙げており、生徒が主体的に活動できるようになっている。

[設問] 学校の教育方針に添って実施され、生徒に効果的な行事となっている。

評価結果⇒⇒学校行事は生徒たちにとって効果的なものとなっている。

教職員研修

*教職員研修 授業研究 初任者サポート 校外研修 研修成果の共有

[設問] 教科会議で授業内容について意見交換を行うなどの機会がある。

評価結果⇒⇒教科会議における授業内容の検討はできているが、さらにすすめる必要がある。

[設問] 初任者等、経験の少ない教職員をサポートする体制が学校全体で整っている。

評価結果⇒⇒初任者へのサポート体制をより充実させる必要がある。

[設問] 校外の研修に教員が参加できる体制が整っている。

評価結果⇒⇒校外の研修に参加しづらい状況にあり改善が求められる。

[設問] 研修、研究に参加した成果を、他の教員と共有できる体制にある。

評価結果⇒⇒研修・研究の成果を共有できる体制作りが求められる。

生徒募集

* 生徒募集 生徒募集への努力について

〔設問〕 生徒募集について組織的な取り組みが行われている。

評価結果⇒⇒組織的に生徒募集が行われている。

〔設問〕 教職員一人ひとりが生徒募集に関心を持っている。

評価結果⇒⇒教職員は生徒募集に関心を持つようになったがさらに進めなければならない。

* 広報活動 広報活動について

〔設問〕 広報活動の重要性について理解し、教職員全員で取り組むことができている。

評価結果⇒⇒教職員の認識は高まりつつあるがさらに求められる。

5 自己評価分析

- ・平成25年度に比べ、C・Dという評価項目が半減している。

平成25年度 13項目 平成26年度 7項目

- ・平成25年度に続き26年度も評価がC・Dであったものは、「校訓について」、「財務に関する意識」、「授業公開」、「不登校対策」、「初任者へのサポート」、「校外研修」、「研修成果の共有」である。

しかし、これらの7項目についてもDの割合は減少し、Cに移行していることがわかる。

- ・Aの割合（35%以上が「よくあてはまる」とする肯定的評価）が高い項目が、25年度4項目であったものが、26年度には9項目に増加している。

25年度 (22)生徒指導体制 (23)家庭との連携 (26)カウンセリング体制 (31)生徒会活動

26年度 25年度の項目に+されたものとして、(7)ホームページの活用 (12)学校開放・地域交流 (32)クラブ活動 (34)授業研究(教科会議での) (38)生徒募集への努力がある

- ・A・Bの評価を得たもののうち、90%以上のものは、

(7)ホームページの活用 (12)学校開放・地域交流 (17)キャリア教育

(22)生徒指導体制 (23)家庭との連携 (24)生徒支援・学習指導

(26)カウンセリング体制 (28)進路指導 (30)退学生を減らす取り組み

(31)生徒会活動 (32)クラブ活動 (33)学校行事 (38)生徒募集

であり、対生徒への指導に関わる項目について高い評価が出ている。

6 評価委員会の意見

- ・学校全体として、教職員の積極的な取り組み姿勢が、25年度よりA・Bの評価が多くなった結果であると判断できる。
- ・普段から生徒と向き合うとともに、生徒をいかに指導し動かしていくかに取り組んだ成果であると判断できる
- ・学校の大事な「校訓について」の取り組みが不十分であるという点について大いに反省すべきである。
- ・校訓の「立志 自立 誠実 勤勉」を生徒に理解させ、実践させる取り組みが必要である。
- ・保護者に対する授業公開が不十分であるという評価が多いが、教員は自信を持って授業に取り組み、生徒に対しわかりやすい、楽しい授業を展開できるよう研究・研鑽が必要である。
- ・不登校生徒への体制についても、さらに積極的なかわりを持つことが必要である。
- ・教職員への研修の場をもっと増やすことが必要であり、研修で得たものを共有できるようにしていかねばならない。

7 学校関係者評価委員からの意見

学校関係者評価を求めるため、正式な評価委員会ではないが、学校法人役員・PTA役員・同窓会役員の方々から学校評価（自己評価）に基づきいただいた意見を次に記す。

- ・学校の校訓の浸透に努力が見られるがさらなる取り組みが必要である。
- ・授業はしっかりと取り組まれている。
- ・生徒指導が行き届いており、髪型・服装など高校生らしい。また挨拶も励行されている。
- ・通学態度もよくなってきている。
- ・生徒がしっかりと自主的に活動している姿が見られるようになっている。
- ・キャリア教育・進路指導・環境教育・人権教育にしっかりと取り組まれている。
- ・学校のHPなどでの情報公開がなされている。
- ・生徒は明るく、学校の雰囲気が大変良い。教職員も礼儀正しい。

8 今後の目標

生徒が楽しくいきいきとした学校生活を過ごしていけるように、生徒指導・特活指導・人権教育・支援教育・キャリア教育の推進を図る。

そのために、教職員個々の力量を高めるとともに学年団の力量、学校全体の組織力を高めていくように心がけ取り組んでいく。

転学生・退学生が出ないように、入学したからには必ず卒業させるように指導していくとともに、社会に有用な人材として送り出せるよう、基礎学力の確立と発展的学力を育成していく取り組みを行なう。また、社会的規範やマナーを守れ、他者に対し畏敬の念を持って接することができる意識を持たせるよう取り組む。